



# Prism

## 小さな社会の、頼もしいリーダーたち ～委員会活動の一コマ～

昨日、委員会活動がありました。昨年度立ち上がった生徒会組織ですが、現在は執行部を中心に、様々な委員会で活発な意見交換や提案が行われています。

ある日の執行部。「今年度、自分たちが目指すべき姿」についての話し合いでのことです。

「課題は何かな?」という問いかけに、子どもたちからリアルな声が上がりました。「先輩に対して下級生が反抗的になることがある」「言葉の使い方が良くないのかも」「スナックタイムにPCを見ながらお菓子を食べている人がいる」「食事のマナーも気になるね」……。

自分たちの足元にある問題点をしっかり見つめ直した結果、「人としての礼儀を身につけよう」という行動目標が決まりました。

そこからの解決へのアプローチが見事でした。「マナーのワークショップをしよう」「スナックタイムに見回りをしよう」「給食の様子は先生方に情報収集しよう」と、教師が介入せずとも、課題を解決するための具体的な内容と方法が次々に提案されていったのです。

「問いを見出し、テーマを設定し、その解決方法を探る」——口で言うのは簡単ですが、これは日頃の探究や教科学習で培ったスキルが、実践の場で生きた瞬間でした。点数では測れない「課題解決力(非認知能力)」が、子どもたちの中に確かに育っていることを実感し、頼もしく思いました。

時に「こうなさい」とルールを決めて守らせる場面も必要です。しかし、ただルールに従うだけでは、想定外の事態に対応できません。例えば食事のマナーひとつとっても、何が本当に心地よい振る舞いなのかは、自分たちで考え、目指していくものです。

学校は社会の縮図です。教科の学習と同じくらい、こうした「自分たちで課題を見出し、解決していく力」を学ぶ重要な場です。ここで培った経験は、一歩社会に出たとき、どんな環境でも自分で考え、適切に判断して生きていくための「逞しさ」につながると信じています。

## ■ 家庭科の授業風景

今年度初めての家庭科の授業。私は生徒たちにこう語りかけました。

「家庭科は、明日からの自分の生活を快適にする『サバイバルスキル』を学ぶ時間だよ」

今年度は数ある領域の中から、「消費・経済」と「家族・家庭」を軸に、社会で生き抜くリアルな力を学んでいきます。

まずは「消費・経済」の学習からスタート。この授業に先立って行ったアンケートの結果が、実に興味深いものでした。

「お金の使い方を考えている」という生徒が約7割、「貯金をしている」生徒にいたっては85%。さらに驚いたのは、約7割の生徒がすでに「株や投資」に興味を持っているということです。「お金を増やしたい」「おもしろそう」というピュアな好奇心から、中には実際に経験しているという頼もしい声もありました。現代の子どもたちの金融への関心の高さには、目を見張るものがあります。

授業では、いつも探究学習を支えてくださっている保護者サポーターの岩元さんをお招きし、リアルな話題を提供していただきました。それを刺激に、生徒たちは「自分ならどんな実践ができるか」と目を輝かせてアイデアを練っていました。

私たちが目指すのは、18歳で成人を迎える子どもたちが、社会に出て自立した消費活動ができるようになることです。

自分の収入に見合った生活設計を立てる力、トラブルに巻き込まれないための「金融リテラシー」、そして自分の買い物が世界の持続可能性(SDGs)にどうつながっているかを見通す広い視点。そんな「一生もののスキル」を、これからの授業を通じて一緒に育んでいきたいと考えています。



【授業風景】

## 【家庭科の学習内容】

学ぶこと(ジャンル)	つなごう力(自立)	具体的に何?
衣・食・住	生活の自立	栄養バランスを考えて料理する、お気に入りの服を良持ちさせる、快適な部屋を保つ。
家族・地域	心の自立	周りの人と心地よい関係をつくる、子どものお世話について知る。
消費生活・環境	経済の自立	まさにここ！取りあるお金や地球の資源を、賢く選んで使う(=賢い消費者)。

